

「イエス・キリストのものとなるように」

2018年08月21日

ローマの信徒への手紙1章2節～6節 — この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。 —

聖書の注解書や説教集などで、聖書本文を載せているものは少ない。聖書は座右に置いて、読みなさいということであろうが、聖書を座右に置いて読むことは少ない。私は、まず聖書本文を掲げて、注解らしきものを書いてきた。聖書を読む度に、新しい発見があり、自分が新たにされるような喜びがある。しかし私の注解には、聖書記者が書いた意図とは違っていることもあるだろう。だから私は、まず聖書本文を読んでもらいたいと思って、聖書本文を掲げてきた。聖書本文を読み、私の注解によって聖書理解が進み、少しでも信仰の糧になれば、というのが、私の願いである。

パウロはローマ教会宛てに、大部の手紙を書き始めた。その冒頭、「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、」と書いた。「神の福音のため」と書くとすぐに、福音の内実を説明したいと思ったのであろう、「この福音は」と続けている。パウロは目が悪かったので、自分の手で手紙を書くことは少なく、同行していた弟子に口述筆記させて認めている。口述だから、言葉は自由奔放に飛び出すようになる。そのため、手紙から生き生きと、パウロの息遣いが伝わってくる。「福音」という言葉を語った時、心は、その福音を説明したいと口をついて出て来たのではないか。

パウロは、「この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです」と、福音は神が預言者を通して約束されたもので、御子イエスに関わるものであると言う。その御子イエスは「人」としての肉の面と「神」としての霊の面がある。「人」としては、「肉によればダビデの子孫から生まれ」た。ユダヤ人はメシア（キリスト）はダビデの子孫から生まれるという伝統的な信仰を持っており、パウロもそれを継承している。パウロは、ガラテヤ書4章4節で、御子イエスの誕生について、「しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」と、律法の下、つまりユダヤ人の女から生まれた「人」とであると書いている。

「神」としては、「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです」と、御子イエスは、十字架の死の中から復活し、死に勝利された力ある神の子である。御子イエスは「神」が「人」になり、「人」が「神」になった「真の人」であり、同時に「真の神」である。パウロは、「この方が、わたしたちの主イエス・キリストです」と告げている。御子イエスにより、この方の御名を広めて全ての異邦人を信仰に導くために、私は恵みを受け、使徒とされた。あなたがたのローマ教会には、多くの異邦人がいるでしょうが、イエス・キリストのものとなるように召されたのである。パウロは、福音を異邦人に宣教するために使徒となった。それは、とりもなおさず、あなたがた異邦人がキリストのもの（クリスチャン）になるためであると語っている。